

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00896

研究課題名(和文) 貨幣のソグド語銘文からみるソグドの歴史

研究課題名(英文) History of Sogdians as seen from coin legends in Sogdian script

研究代表者

吉田 豊 (Yoshida, Yutaka)

帝京大学・付置研究所・教授

研究者番号：30191620

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：ソグドはウズベキスタン南部サマルカンドを中心とする地域のイスラム化以前の名称で、ソグド語はイラン系の言語で死語である。研究期間中ソグド語圏で発行されたソグド語の銘文のあるコインについて研究した。研究成果は主に3種類である。1つめは先行研究の消化であり、旧ソ連圏のロシア語で書かれた関連研究について調査し、必要な場合には日本語に翻訳して発表した。2つめは、現在私が所属する帝京大学文化財研究所が寄託を受けている個人のコレクションのコインの銘文や型式の解明である。その成果は論文にし現在印刷中である。3つめは、同研究所がキルギス共和国の遺跡で発掘したコインの研究で、それにより遺跡の年代比定に貢献した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ソグド人はシルクロードの交易の担い手であった。しかしソグド語圏で発行されたソグド語の銘文のあるコインの研究の伝統は日本では皆無に等しい。その結果シルクロードで出土した発掘品の展示会の展示目録の説明には多くの場合誤った記述が見られる。そのような誤謬を訂正するという大きな社会的意義がこの研究にはある。また私は帝京大学文化財研究所が現在発掘中のキルギス共和国のAk Beshim遺跡から発掘された60点のコインを研究し、銘文や型式から、発行者、発行地、発行時代を特定する研究を進めている。この研究によって当該のコインが出土した遺跡の位相の時代を特定できるという学術的な意義がある。

研究成果の概要(英文)：Sogdiana is the pre-Islamic name of the region centered around Samarkand in southern Uzbekistan, and Sogdian is an Iranian language that is now extinct. During my research period, I studied coins with Sogdian inscriptions that were issued in Sogdian-speaking areas. I have produced three main research results. The first was a digest of previous research, in which I investigated related research written in Russian in the former Soviet Union and, where necessary, translated it into Japanese and published it. The second was the elucidation of the inscriptions and types of coins in a private collection that have been entrusted to the Teikyo University Institute for Cultural Properties, to which I am currently affiliated. The results of this research have been compiled into a paper and are currently in the process of being printed. The third was a study of coins excavated by the institute at an archaeological site in the Kyrgyz Republic, which contributed to determining the age of the site.

研究分野：ソグド語文献研究

キーワード：ソグド語 ソグド人 シルクロード 碎葉鎮 古銭学 Ak Beshim遺跡 突騎施 西域

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) ソグドは 10 世紀に中央アジアがイスラム化する以前のサマルカンドを中心とする地域の名称である。ソグド人は交易の民として中国にも多く居住していたことはよく知られている。世界史、とりわけ東西交渉史上でソグド人が果たした役割は絶大で、ソグドやソグド人の歴史は研究者だけでなく、シルクロードに興味を持つ一般の人たちからも注目されている。

(2) ソグド語はイラン系の言語であるが、ソグドがイスラム圏に併呑され独立を失う過程でソグド人はペルシア語化し、ソグド語は死語となった。筆者は、現在まで歴史言語学、イラン語史研究の立場からソグド語の文献（4 世紀から 11 世紀）を研究してきている。その関係で契約文書や手紙、碑文などのソグド語の世俗文献も解読し発表してきている。世俗文献の研究にはソグドやシルクロードの歴史についての知識は不可欠であるが、それはまた未だに不明な部分が多く残されている研究分野でもある。従って申請者は専門のソグド語の研究以外に、ソグドやソグド人の歴史・文化に関する研究にも携わってきており、一定数の業績も発表している。20 年以上も前、下のコインの銘文を読む機会があった。



キルギスタン北部で出土するソグド語銘コイン

片面は読み解くと確実に *wn'ntm'x xwbw* と読み、*Wanantmakh* というソグド名を持つ王が発行したコインであることが明らかになったが、それはこれが出土するキルギスタンのコインの研究を行っていたロシア人研究者による誤った読みに基づくこの地域の歴史観を根底から覆すことになった。

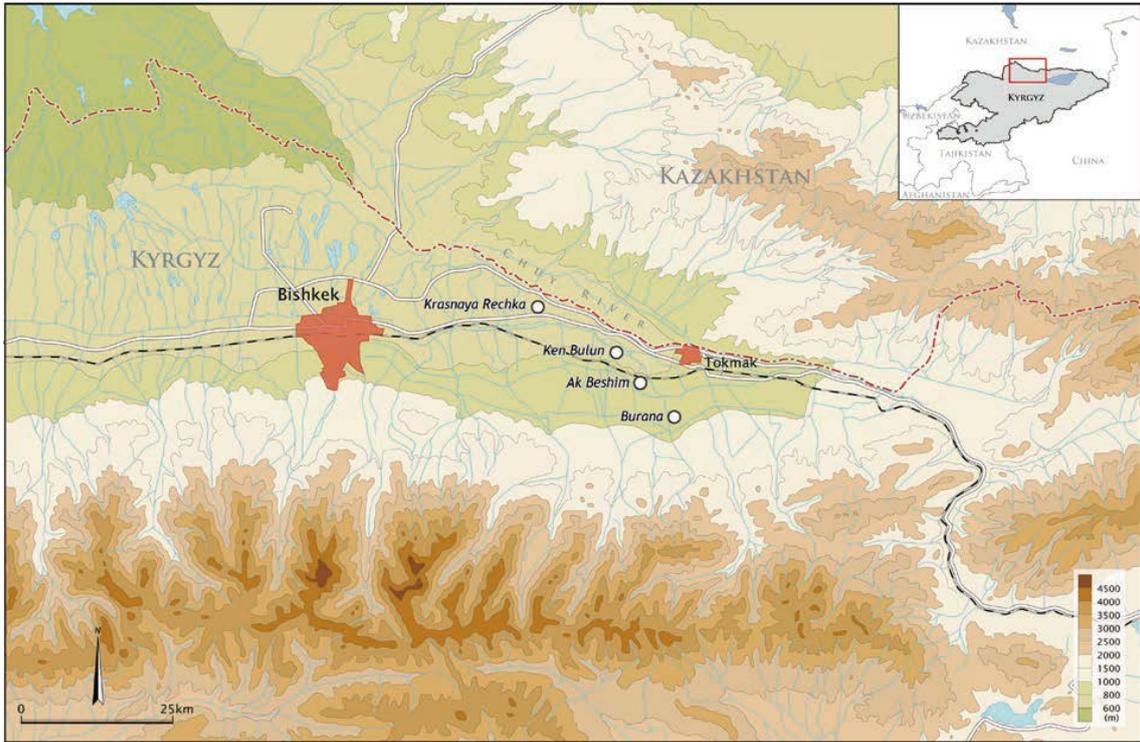
(3) 筆者は現在帝京大学文化財研究所の客員教授として、キルギス共和国の遺跡の発掘に従事しており、毎年一定数のコインが出土しているが、現地の研究機関に保管されたままで、まだ研究されていない。

2. 研究の目的

(1) ソグド語圏で発掘された資料でソグド語が残されているのは金石文が主である。筆者は近年帝京大学文化財研究所が行うキルギスタンでのアクベシム遺跡発掘チームのメンバーになり、出土物の中のソグド語金石文の研究を担当している。それらは陶片と貨幣および周辺地域の岸壁に刻まれた落書きに近い銘文類である。貨幣の場合は、それが出土する遺跡の層位だけでなく、保存状態の良い貨幣では発行者である王の名前や称号が回収できる。また貨幣の型式や、王の肖像が残されている場合はそれも参考になる。本研究の目的は、ソグド語圏で発見される貨幣の型式と銘文を可能な限り調査・研究し、ソグド語圏の歴史を解明する基礎資料を提出すること、さらにその研究に基づいて、ソグド語圏の歴史やソグド人の活動の再構成を試みることである。

(2) 帝京大学文化財研究所がキルギス共和国の北部の Ak Beshim 遺跡において過去 8 年間に発掘し、現地の研究所に保管されたままになっているコイン全点の研究も目的に含まれる。具体的にはサイズや重量の計測、写真撮影などの非破壊調査に加えて、表面の錆がそれほど多くなく、銘文が確認できる場合にはその銘文を解読し、従来から知られている貨幣との型式の比較や比定

を行う。そしてそれらについて報告書にまとめること。



キルギス共和国北部：Ak Beshim 遺跡の位置

3. 研究の方法

(1) 先行研究の把握：ソグド語圏は旧ソ連邦の共和国である、ウズベキスタン、タジキスタン、キルギスタンにまたがっており、旧ソ連圏の研究者によるロシア語で書かれた研究の重厚な蓄積がある。まずはそれらについて把握する必要がある。またそれらのうちでも特に重要な研究については、日本の研究者が利用できるように詳細な訳注を施した日本語訳を提供する。とりわけキルギス共和国在住の在野の古銭学者である A. Kamyshev は、キルギス共和国内で出土するコインに関する重要な研究を発表してきているので、当面は Kamyshev の研究論文や著書を翻訳し発表する。

(2) 現地調査：まずは帝京大学文化財研究所が発掘したコインが保管されているキルギス共和国の首都ビシュケクにある科学アカデミーを訪問し、現在までに出土した 60 点のコインの計測や銘文の解読、型式の比定を行う。別にキルギスの各地方博物館や大学博物館を訪問し、展示されている出土品を調査する。また、型式や銘文の研究結果と、研究所の保存科学班が行っている蛍光 X 線による成分分析結果をつきあわせて、なんらかの相関関係がないかを調べてみる。

(3) ソグド語圏全般で出土するコインについて：この課題に関しては、国内屈指のシルクロードコインの収集家の方の協力を得て、数千点のコレクションの全部を順次研究所に寄託していただき、写真撮影するとともに、銘文の解読や型式の比定だけでなく、蛍光 X 線分析を行う。

4. 研究成果

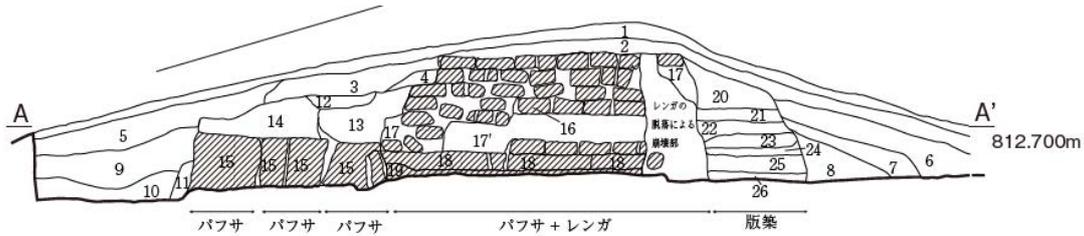
(1) 帝京大学文化財研究所が Ak Beshim 遺跡で発掘したコイン 60 点についての研究成果：2023 年度の現地調査の際、文化財研究所が 2016 年以来、遺跡の 3 箇所が発掘しているコイン 60 点全点について計測と銘文の解読を行い、報告論文としてまとめた。下に 3 点のコインの例を示す：



帝京大学文化財研究所が発掘したコインの 3 例：左から開元通寶の現地摸倣貨幣（銘文漢

文) 8 世紀前半? ; 突騎施錢 (銘文ソグド語 $bg\ y\ twrky\ \$\ x'g'n\ pny$ 「神なる突騎施可汗の銅錢」) 8 世紀前半から後半 ; さび付いて銘文が確認できない方孔錢

その論文では, Ak Beshim 遺跡の他の 5 地点でこれまでに発掘されているコインについての古い報告書を参考にして, 出土コインの型式の相違についても考察した. また, 出土コインの型式を比定することによって, それが出土した位相の相対年代を明らかにすることができた. 下の南側城壁の断面図から, この城壁が向かって右側の城壁内側と, 左側とで異なる建築様式で造営されていることが判明する. 右側は中国式の版築であり, 左側は現地式の大型の日干しレンガ造りである. 一方が崩れた際, 他方の様式で補修したことが推測される. この間の発掘で Ak Beshim 遺跡の東半分は, 唐の領土が最大であった 7 世紀後半, 唐が設置した碎葉鎮城であったことが知られている. 8 世紀半ば以降に発行された突騎施のコインは左側から出土しているのに, 7 世紀終わり中国式で造営された城壁を 8 世紀後半以降現地式で補修されたことが判明する.



(2) 先行研究の批判的な検討 : キルギス共和国で出土するコインについてのロシア語による先行研究を検討し, 特に重要なものは日本語に翻訳するとともに, 改善すべき点などについて詳細な訳注を添えた.

(3) ソグド語圏およびシルクロードのコインについての研究と歴史の解明 : 帝京大学文化財研究所に寄託されているコインおよびその他の金石文の調査によって, ソグド人の商業活動について新しい発見があった. 1 例を挙げると, 現在のアフガニスタン南部, 首都カーブルおよびガズナ地方で 8 世紀に発行されたコイン (Type 314A と呼ばれる) には, 現地の文字言語であるギリシア文字表記のバクトリア語銘文以外に, ソグド語の銘文が添えられていることを発見した. これは寄託されているコインの現物を詳しく観察することによって可能になった. この奇妙な事実は, ソグド商人がシルクロード沿いの遊牧民あるいはオアシス国家において財政面を担当していたことを示唆する. その背景にはこれらの地域がソグド商人の商業圏に含まれていたことを示していると考えられる.

Type 314A



8 世紀アフガニスタン南部のコイン : 裏側 5 時の位置にソグド語銘文
上のコインがそれで王のプロフィールのあるオモテ面の銘文はバクトリア語だが, ウラ面にはソグド文字で pm 「吉祥, 栄光」と刻まれている.

(4) ソグド語文献およびソグド語文法の研究 : コインの銘文を解読するには, ソグド語文献全般についての知識は不可欠で, 普段からソグド語文献に接し解読作業を続けていなければならない. 2021 年度から 2023 年度の間には, 従来, 写真は公開されているものの解読されていなかった, 大谷探検将来の西巖寺橋資料及びロシアの東方学研究所東洋写本部に保管された, トルファン出土のソグド語文献の断片について, 文字の判読とテキストの提出及び内容の解明を行った. その成果は私家版ではあるが報告書としてまとめた. これらは小さな断片であるだけでなく, すべて漢文仏典の裏面を利用して書かれているためにあまり注目されてこなかったものの, 表裏の写真は公開されていて誰でも見ることができる. 別にオモテの漢文仏典を比定することによって, ベルリンの断片や龍谷大学図書館に所蔵されている大谷資料の断片と接合する事例もいくつか見つかった. このような接合作業を行うためには, 世界の研究機関に分散して所蔵されている類似のソグド語断片のオモテ面の漢文仏典を比定したデータベースが必須であり, そのようなデータベースも報告書には掲載しておいた.

筆者は長年ソグド語とソグド語文献を研究してきている。この間 2020 年春に前任校を退職するまで大学の教員として在職中の 20 年ほど、ソグド語文法を授業で教授することがあった。その授業で利用していた、ソグド語文法を日本語で解説した教授資料を 2022 年度に著書としてまとめ出版した。本書は、独習できるようにも配慮しており、今後日本国内でソグド語を研究する後継者が現れることを期している。ソグド語文法の全般を扱う文法書は世界的に見ても珍しく、一冊本として出版されるのは 1954 年にオックスフォード大学出版社から刊行された I. Gershevitch, *A grammar of Manichean Sogdian* 以来、実に 70 年ぶりのことであった。この間の研究の進展はめざましく、本書には最新の研究成果も搭載してある。

(5) その他：筆者はソグド語以外にも中央アジアマニ教、ソグド文化史、中央アジア史などについても研究しており、関連する論文も発表している。

5. 主要な論文発表

[雑誌論文など]

- ① 吉田 豊「帝京大学文化財研究所研究によるアク・ベシム遺跡（キルギス共和国）の発掘調査について」『東方学』147 輯，2024/1, pp. 94-105.
- ② 吉田 豊「第二章 玄奘とソグド人」近本謙介・影山悦子（編）『玄奘三蔵がつなぐ中アジアと日本』京都：臨川書店，2023/12, pp. 33-66.
- ③ Y. Yoshida, “Chapter 9 Chinese in Sogdian script and Sogdian in Chinese characters”, B. Meisterernst (ed.), *When the West meets the East. Early Western accounts of the languages of the Sinosphere and their impact on the history of Chinese linguistics*, Wiesbaden: Harrassowitz, 2023, 205-218.
- ④ 吉田 豊「カラバルガスン碑文と初期ウイグルマニ教史：牟羽可汗, P. Zieme, L. Clark, 森安孝夫」関西大学東西学術研究所研究叢書 第 14 号（ユーラシア歴史文化研究班）『文書・出土・石刻史料が語るユーラシアの歴史と文化』2023/3, pp. 99-120.
- ⑤ 吉田 豊「藤田美術館蔵絹絵マニ像の新発見に寄せて」『帝京大学文化財研究所研究報告』第 21 集，2022/11, pp. 39-48.
- ⑥ Y. Yoshida, “Sogdian Christians in China, Turfan and Sogdiana”, in: G. Mikkelsen and K. Parry (ed.), *Byzantium to China: Religion, history and culture on the Silk Roads*, Leiden/Boston: Brill, 2022, pp. 596-617.
- ⑦ Y. Yoshida, “Chapter 5: Three scenarios for the historical background of the Xi’an Sino-Pahlavi inscription: Post-Sasanian Zoroastrian traders?”, in: D. G. Tor and M. Inaba (eds.), *The history and culture of Iran and Central Asia. From the Pre-Islamic to the Islamic period*, Indiana: University of Notre Dame Press, 2022, pp. 73-92.
- ⑧ Y. Yoshida, “A painting of Mani held by Fujita Museum”, in: A. Cantera, Maria Macuch and Nicholas Sims-Williams (eds.), *The reward of the righteous. Festschrift in honour of Almut Hintze*, Wiesbaden, 2022, pp. 561-573.
- ⑨ 吉田 豊，山内 和也「翻訳：A.M. カミシェフ著「アク・ベシム遺跡遺跡で採集されたコイン資料」」（山内和也と共訳）『帝京大学文化財研究所研究報告』第 20 集，2021/11, pp. 103-126.
- ⑩ 吉田 豊「補説：クズラソフ Kyzlasov が発掘したコインの年代と歴史的背景に関するクローソン Clauson の解釈の問題点とコインに関する研究のその後の展開」『帝京大学文化財研究所研究報告』第 20 集，2021/11, pp.99-102.
- ⑪ Y. Yoshida, “The Sogdian Merchant Network” in: Oxford Research Encyclopedia of Asian History (online) <https://doi.org/10.1093/acrefore/9780190277727.013.491>

[学会発表]

- ① Y. Yoshida, ‘Narratives and parables in Buddhist Sogdian texts’, International Symposium: Variety of Jataka and Avadana Transmission, 2023 年 11 月 27 日
- ② 吉田 豊「シルクロード商人の妻たちの墓誌から」日本女子大学史学研究会第 62 回大会，2023 年 11 月 25 日
- ③ Y. Yoshida, ‘Three Sogdian Inscriptions from Mongolia’, V. A. Livshits Centenary Lectures at IICAS, 2023 年 9 月 29 日

[図書]

- ① 山内 和也（編） 帝京大学文化財研究所 『シルクロードのコイン』 2024 年（印刷中）605 ページ（共著，担当分：120 ページ）
- ② 吉田 豊 私家版 『トルファン出土ソグド文字ソグド語断片拾遺—西巖寺橋資料とロシア所蔵 Dx 資料から— 付録：ソグド文字マニ教ソグド語文献の漢文面のリスト』 2024 年 216 ページ
- ③ 吉田 豊 臨川書店 『ソグド語文法講義』 2022 年 508 ページ

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 吉田豊	4. 巻 1
2. 論文標題 玄奘とソグド人	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 玄奘三蔵がつなく中アジアと日本	6. 最初と最後の頁 33-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yutaka Yoshida	4. 巻 1
2. 論文標題 Chinese in Sogdian script and Sogdian in Chinese characters	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 When the West meets the East. Early Western accounts of the languages of the Sinosphere and their impact on the history of Chinese linguistics	6. 最初と最後の頁 205-218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yutaka Yoshida	4. 巻 1
2. 論文標題 Sogdian Christians in China, Turfan and Sogdiana	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Byzantium to China: Religion, history and culture on the Silk Roads	6. 最初と最後の頁 596-617
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yutaka Yoshida	4. 巻 1
2. 論文標題 Three scenarios for the historical background of the Xi'an Sino-Pahlavi inscription: Post-Sasanian Zoroastrian traders?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The history and culture of Iran and Central Asia	6. 最初と最後の頁 73-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yutaka Yoshida	4. 巻 1
2. 論文標題 A painting of Mani held by Fujita Museum	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The reward of the righteous	6. 最初と最後の頁 561-573
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 吉田豊	4. 巻 21
2. 論文標題 藤田美術館蔵絹絵マニ像の新発見に寄せて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 帝京大学文化財研究所研究報告	6. 最初と最後の頁 39-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田豊	4. 巻 14
2. 論文標題 カラバルガスン碑文と初期ウイグルマニ教史：牟羽可汗，P. Zieme, L. Clark, 森安孝夫	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 関西大学東西学術研究所研究叢書	6. 最初と最後の頁 99-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田豊	4. 巻 6
2. 論文標題 中原，吐魯番以索格底亞那的粟特人景教徒	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 絲路文明	6. 最初と最後の頁 167-186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田豊	4. 巻 21
2. 論文標題 イラン語文献に見えるシルクロードの女性の生活	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Euro-Narasia Q	6. 最初と最後の頁 16-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田豊	4. 巻 20
2. 論文標題 クズラソフKyzlasovが発掘したコインの年代と歴史的背景に関するクローソンClausonの解釈の問題点とコインに関する研究のその後の展開	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 帝京大学文化財研究所研究報告	6. 最初と最後の頁 99-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yutaka Yoshida	4. 巻 1
2. 論文標題 The Sogdian Merchant Network	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Oxford Research Encyclopedia of Asian History	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件(うち招待講演 4件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Yutaka Yoshida
2. 発表標題 Narratives and parables in Buddhist Sogdian texts
3. 学会等名 International Symposium: Variety of Jataka and Avadana Transmission (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yutaka Yoshida
2. 発表標題 Three Sogdian Inscriptions from Mongolia
3. 学会等名 V. A. Livshits Centenary Lectures at IICAS (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉田豊
2. 発表標題 玄奘三蔵とソグド人
3. 学会等名 国際ワークショップ「玄奘三蔵がつなぐ中央アジアと日本」(招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田豊
2. 発表標題 日本にある江南マニ教絵画からみえてくること
3. 学会等名 ユーラシアにおける宗教遺産研究の可能性 (招待講演)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 吉田豊	4. 発行年 2022年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 508
3. 書名 ソグド語文法講義	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------